



展覧会スケジュール

2024.03 → 2025.06

展覧会スケジュール

※詳細はWEBサイトでご確認ください。

2024

3月19日(火)～6月2日(日)

共催展

卒寿記念 人間国宝 鈴木藏の志野展(仮称)

重要無形文化財「志野」の保持者(人間国宝)、鈴木藏(1934年生まれ)の作陶の軌跡と“今”を紹介します。鈴木は、薪窯でしか焼けないとされていた「志野」にガス窯で挑戦し、伝統を大切にしながらも独自のスタイルを確立していきました。2024年に卒寿を迎えるのを機に、初期から最新作までの優品を通して、その神髄に触れていただきます。



鈴木藏《志野大皿》1991年
個人蔵

6月18日(火)～8月18日(日)

おとなとこどもの自由研究 工芸の光と影展

工芸を前に思わずこぼれるため息の源をさぐる展覧会。キーワードは「光」、そして「影」。物質感やかたち、構造由来の輝きがあこがれをかき立てる一方で、そこに漂う謎めいた陰影もまた目と心を捉えてやみません。そのコントラストとハーモニーに浸り、学びましょう。皆さんの「うっとり」を応援するプログラムもご用意しました。



小川雄平《陶製黒豹置物》(部分) 1933年
国立工芸館蔵

9月6日(金)～12月1日(日)

特別展

心象工芸展(仮称)

本展では沖潤子、佐々木類、高橋賢悟、中川衛、中田真裕、松永圭太の6名の作家による、心象風景や社会との関わりをモチーフとした工芸作品をご紹介します。素材への理解や高い技術、用途性といった工芸らしさに加え、今の時代を生き、自己の内面を表現する現代の美術家としての彼らの作品をお楽しみください。



沖潤子《scarlet》2023年
個人蔵

12月17日(火)～2月24日(月・祝)

反復と偶然の工芸展(仮称)

反復と偶然という対照的な言葉を鍵に、工芸・デザイン作品を紹介。反復する技術が造形につながる作品や、複数揃える用途のあるものなど、反復から生まれる形には工芸やデザインならではの特徴がみられます。一方で自然素材がもつ偶然性が反復を打ち破り、作品の魅力となることがあります。両極の特徴から工芸の魅力を探ります。



飯塚琅玕齋《花籃 あんこう》1957年
国立工芸館蔵
大屋孝雄 ©2020

3月14日(金)～6月22日(日)

花と暮らす展(仮称)

日本には春夏秋冬の四季があり、季節ごとの花や色彩を生活に取り入れ、日々の暮らしを楽しんできました。本展では国立工芸館の所蔵品を中心に、春から夏にかけて咲いている花をテーマにした工芸・デザイン作品をご紹介します。身の回りにある花々だからこそ、それぞれの技法や個性が際立ってきます。身近な自然と工芸・デザインの関係にご注目ください。



杉浦非水《絵はがき 木瓜(ぼけ)》
1915-16年頃
国立工芸館蔵